

# ジェイテクト5周年 社会の課題と向き合い、考え、 歩み続けてきた5年間。

ジェイテクトは2011年、設立5周年を迎えました。この5年間に、社会も、ジェイテクトも、そしてジェイテクトのCSRも、さまざまな変化を遂げました。一つの節目を迎えた今、これまでの歩みを振り返ります。

## ジェイテクト設立に至るまで

自動車業界の世界的な競争激化に  
対応するために

ジェイテクトは2006年1月1日、  
光洋精工と豊田工機が合併して誕生しました。  
両社が合併に至るまでの経緯を紹介します。

合併調印式（2005年2月）



2005.5 合併契約を締結  
光洋精工と豊田工機の両社が合併  
契約締結し、社名をジェイテクトと決定。

● 経営に関するトピックス ● 技術に関するトピックス ● CSRに関するトピックス  
**ジェイテクトのあゆみ**

ジェイテクト  
**CSRレポートの軌跡**

**当時の社会状況**

### 光洋精工

1921年、ベアリングを祖業として創業者の池田善一郎が光洋精工社を創業。1935年、株式会社に改組。主力製品は軸受（ベアリング）。

1988.3  
光洋精工  
世界初のEPS（電動パワーステアリング）を開発

自動車の製造に欠かせない優秀な国産工作機械をつくるために、トヨタ自動車工業から分離・独立し、1941年設立。主力製品は工作機械。

### 豊田工機

2000.9  
光洋精工と豊田工機が  
電動パワーステアリングの  
共同開発で基本合意

小型車向けのコラムタイプ、ピニオンタイプを光洋精工が、大型車向けのラックタイプを豊田工機が開発することで基本合意しました。これは両社が持つ技術力・開発力を結集し、開発スピードの向上と効率化を図り、競争時代に対応していくことが目的でした。

2000

2002

2005



2002.11 ファーブス設立

光洋精工、豊田工機、デンソー、トヨタ自動車の共同出資により、電動パワーステアリングの開発・販売を行うファーブスを設立。光洋精工と豊田工機の融和が進み、ジェイテクト誕生につながる重要な役割を果たしました。



ファーブス営業開始記念式典（2003年2月）

2005.10  
東京モーターショーで  
ジェイテクト紹介

ジェイテクトブースにてプレスブリーフィングを実施。報道関係者に向けて誕生に至る経緯から今後の方向性、合併したからこそ可能となる事業展開とグローバル戦略、今回の出展概要を説明し、新会社への理解を深めていただきました。



東京モーターショーでのプレスブリーフィング

VOICE

ジェイテクトの活力に期待



若林 利明 様  
香川大学工学部材料創造工学科 教授

2010年の10月、久しぶりに国分工場を訪問した際、装置の配置や製品の品質管理に一段の工夫が見られ、感心したことを覚えています。また、つい先日、入社5年未満の若手数名の方と懇談する機会をも

ち、社員を大切にする雰囲気と自由な議論ができる風通しの良さを改めて感じました。ジェイテクト誕生から5周年をお迎えとのこと、本当におめでとうございます。以前から御社の技術力には注目してきましたが、今後も、社会の信頼に応えるモノづくりを通じて、ジェイテクトの活力を存分に発揮されるよう心から期待しています。

2006年度  
スローガン

『JTEKT元年』  
「融和」と「変革」  
シナジー効果の最大発揮を!

- [1月] ● 発足記念式典  
● トヨタ新型カムリ・ラインオフ式で技術部門表彰受賞
- [2月] ● 小型円筒研削盤EGProcessorが優秀省エネルギー機器表彰を受賞  
● 工作機械・メカトロニクス商品感謝の夕べを全国各地で開催(3月まで)
- [4月] ● 入社式 351人入社  
● ジェイテクト協会の設立
- [7月] ● インドネシア・ジャワ島中部の地震被害に対する義援金として736万円を日本赤十字社を通じて寄付
- [12月] ● 名古屋本社へ移転

2007年度  
スローガン

量から質への転換  
「シナジーの追求と確実な成果の創出」

- [1月] ● 超低トルク高性能円すいころ軸受LFT-Ⅲが優秀省エネルギー機器表彰において経済産業大臣賞を受賞
- [3月] ● E-VGRが日刊工業新聞モノづくり部品大賞を受賞
- [4月] ● 入社式 302人入社
- [6月] ● 中国初のEPS生産拠点JSSX開業式
- [7月] ● インドにEPS生産会社JSAIを合併で設立  
● 新潟県中越沖地震被害に対する義援金として300万円を日本赤十字社を通じて寄付
- [9月] ● 風力発電用の大型絶縁セラミック軸受を開発
- [12月] ● 電子制御4WDカップリングITCCが中日産業技術賞の経済産業大臣賞を受賞



2006年1月1日、ジェイテクト誕生

2006

JTEKT

2007

『2006環境・社会報告書』(2005年度の取り組みを紹介)  
人・社会・地球環境との調和を目指して

「環境・社会報告書」としてスタート。合併に伴い、ジェイテクトへの期待と社会的責任が大きくなり、CSRへの取り組みがより重要になりました。グループ一丸で活動を推進し、人・社会・地球環境との調和を目指しました。



『2007社会・環境報告書』(2006年度の取り組みを紹介)  
社会性報告の充実を検討

名称を「社会・環境報告書」へと変更しました。関係部署と報告書のあり方を議論し、環境主体から、ステークホルダーのみなさまへの取り組みなど、社会性報告の充実を検討開始しました。



日本の品質神話が揺らぐ

日本経済は2002年より成長を続け、戦後最長の「いざなぎ景気」を超えました。その一方で、パソコンや家電製品の発火事故、原子力発電用タービンの破損事故、自動車の大量リコールなどが起こり、「日本製＝高品質」という品質神話が大きく揺らいだ年でもありました。

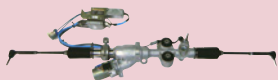
環境保護への関心が高まる

食品業界における偽装事件など、企業のモラル低下に起因すると思われる事象がマスコミで大きく取り上げられました。経済面では原油価格の高騰、米国のサブプライムローン問題などが、日本の経済成長の勢いを弱めました。そして地球温暖化防止をはじめとする環境保護への関心が高まった年でした。

社会の課題と  
向き合い、考え、  
歩み続けてきた5年間。

2008年度 スローガン **更なる「質の向上」による 確実な成長の基盤づくり**

- [1月] ● 立形マシニング市場に本格参入
  - 世界初大型SUV用  
ラッククロス式  
EPS開発を発表
- [4月] ● 入社式 302人入社
  - 全社員に  
オリジナルエコバックを配付
- [5月] ● 中国四川省の地震被害に  
対する義援金として  
1,500万円を中国赤十字社等を通じて寄付
- [8月] ● トルセン国内生産400万台突破
- [10月] ● 緊急収益改善活動の展開強化



2009年度 スローガン **「総力戦」で『黒字を死守』**

- [1月] ● 大型横形マシニングセンタFH1250SXが日刊工業新聞社  
十大新製品賞の本賞を受賞
- [2月] ● CSR推進委員会設置
- [4月] ● 入社式 354人入社
  - 油圧式円筒研削盤LGシリーズが  
「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」から  
ロングライフ・ベストセラー賞を受賞
- [7月] ● インドに軸受販売現法KBINを設立
- [11月] ● インドネシア・スマトラ沖の地震被害に対する義援金として  
100万円を特定非営利法人ジャパン・プラットフォーム※を  
通じて寄付 ※日本経団連1%クラブが支援する国際人道支援組織
- [12月] ● 米国軸受大手  
TIMKEN社から  
ニードル軸受事業を買収



2008

2009

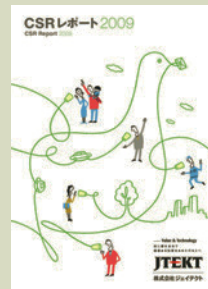
『CSRレポート2008』（2007年度の取り組みを紹介）  
**この年から名称を「CSRレポート」に**

名称を「CSRレポート」と改め、社会とのつながりをより重視しました。ジェイテクトのCSRとは何かを考え、「オンリーワンの技術をより良い未来へつなぐ」を特集しました。



『CSRレポート2009』（2008年度の取り組みを紹介）  
**CSR推進メンバーによる座談会を掲載**

「CSR方針」を策定し、グループ企業、取引先様とともにジェイテクトのCSRを共有することを明文化。推進メンバーによる座談会を開き、いかにCSR意識を高めるか、議論しました。



**企業体質がダイレクトに問われる時代**

米国金融危機をきっかけとした急激な世界の金融経済危機の波は、国内企業の業績や雇用にも大きな影響をもたらしました。金融問題が世界経済にこれほどのスピードで影響を与えたことはかつてありませんでした。まさに企業体質がダイレクトに問われる時代が到来したといえます。

**新興国が世界経済を牽引**

2008年度に発生した百年に一度といわれる金融経済危機により、日・米・欧を中心とした先進国の経済は想定をはるかに超える大きな影響を受けました。そのような中、中国やインドを中心とする新興国が大幅な経済発展を遂げ、世界経済を牽引するまでに成長しました。



鈴木 隆宏 様  
日刊工業新聞社 三重支局長

2006年の4月から5年間、新聞記者として御社の取材をしてきました。取材を始めたばかりの頃はベアリング事業と工作機械事業はバラバラで動いている印象を受けましたが、最近ではトヨタグループの

有力企業として一体感が出てきたと感じます。一方、残念なのは、ベアリング事業も工作機械事業も共通してPR下手ということです。ともにトップクラスの技術を持ちながら、そのすごさに気づいていないケースもあるようでした。今後はもっと自社の技術に自信を持ち、積極的に外部に発信できるようになっていただきたいです。

2010年度  
スローガン

「質」の更なる向上による  
確実な成長軌道へのシンカ!

- [1月] ● CNC複合研削盤TG4が  
日刊工業新聞社十大新製品賞の  
モノづくり賞を受賞
- [2月] ● インド(JSAI)でSTG量産開始
- [3月] ● ハイチ・チリの地震被害に対する義援金として  
それぞれ100万円、50万円を  
特定非営利法人ジャパン・プラットフォームを通じて寄付
- [4月] ● 入社式 178人入社
- [5月] ● 中国青海省の地震被害に対する義援金として  
100万円を日本赤十字社を通じて寄付
- [10月] ● 中国ジェイテクトグループ全社で内部通報制度を構築
- [12月] ● トヨタ自動車のレクサスLFAの  
ラインオフ式で  
トルクチューブASSYが  
プロジェクト表彰を受賞



2011年度  
スローガン

経営の基盤確立・定着に向けた  
確実な成果の創出

- [1月] ● 電動システム開発センター発足
- [2月] ● “CSR HAND BOOK” 発行
- [3月] ● 東日本大震災被害に対する義援金として  
ジェイテクトグループより7,000万円を、社会福祉法人  
中央共同募金会を通じて寄付
- [4月] ● 入社式 290人入社



『CSRレポート2011』(2010年度の取り組みを紹介)

全社員へ啓発活動を展開

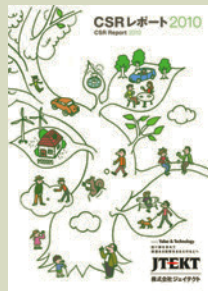
CSR活動を着実かつ力強く推進していくために、特定の組織・人だけでなく全社員へ啓発活動を展開。社員一人ひとりから、ジェイテクトのCSRの輪が社会へ広がることを目指します。

2010

『CSRレポート2010』(2009年度の取り組みを紹介)

ジェイテクトらしいCSRを追求

社会的な課題と真摯に向き合い、ジェイテクトらしいCSRとは何かを追求。ジェイテクトの技術と安心して暮らせる社会とのつながりを示すとともに、メーカーとしてのCSRを約束しました。



事業構造の変革を迫られる日本企業

中国が自動車販売台数および工作機械生産額で世界一となるなど、新興国の存在感・影響力は増大の一途にあります。日本においては円高が抜本的な事業構造の変革を私たちに迫っています。中長期的には電気自動車の普及や、再生可能エネルギー分野での技術革新が経済成長の推進役となりつつあります。

2011

JTEKT VISION 2015策定に向けて  
ワーキンググループを立ち上げ、  
検討を重ねています。

メーカーとしての  
社会的責任を果たすとともに、  
事業活動のすべての分野で  
CSRを推進

ジェイテクトはこれまでモノづくりを通じて、地球環境の保全、車の安全性向上、労働環境の改善などの重要な社会的課題の解決に貢献してきました。今後も、メーカーとしての社会的責任を果たすとともに、社員一人ひとりがCSRについて考え、取り組むことのできる環境を整えることで、事業活動のすべての分野でCSR活動の推進を目指します。

2015